



|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | ナガラ節に見られる日本語学習者の母語転移 : 韓国語母語話者が用いる「ながら」の始点的用法を中心に                                 |
| Author(s)        | 坂口, 昌子; 鄭, 惠先   |
| Citation         | 京都外国語大学研究論叢, 68, 191-198  |
| Issue Date       | 2007  |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/43785">https://hdl.handle.net/2115/43785</a> |
| Type             | journal article   |
| File Information | kyotogaidai.pdf   |



ナガラ節に見られる日本語学習者の母語転移  
—韓国語母語話者が用いる「ながら」の始点的用法を中心に—

坂口昌子・鄭惠先

<요지>

*nagara* 절에 있어서의 일본어학습자의 모어전이

-- 한국어 모어화자가 사용하는 *nagara* 의 시점의 용법을 중심으로--

정·사카구치(2001)에서는 소설 등의 일본어와 한국어의 대역자료를 사용하여 '*nagara*'와 '면서'의 대조연구를 행하였다. 그 결과, '면서'가 '*nagara*'보다 사용상의 제한이 적으며, 주절과 종속절의 시간적 길이에 차이가 있더라도 성립이 가능하다는 것을 증명하였다. 그러한 선행연구에 기초하여 본 연구에서는 한국어·중국어 모어로 하는 일본어학습자의 작문·답화자료를 분석하였다.

본론에서는 일본어학습자가 사용하는 *nagara* 의 오용을 바탕으로 이하의 2 가지 점을 고찰하였다.

- 1) 모어에 따라서 *nagara* 절의 사용에는 어떠한 차이가 나타나는가.
- 2) 일본어 학습기간에 따라서 학습자 간에 *nagara* 절 사용상의 차이가 있는가.

고찰의 결과 다음과 같은 결론을 얻을 수가 있었다.

- i) 전체 사용빈도와 오용빈도의 양쪽 모두에 있어서 한국어 모어화자의 빈도수가 중국어 모어화자에 비해 높았다. 또한 사용된 용법면에서 보면, 한국어 모어화자는 '시점'의 용법을 많이 사용한 것에 반해 중국어 모어화자는 '동시진행의 지속성'의 용법을 많이 사용하는 경향이 보였다.
- ii) '시점'과 '배경성'의 용법에 있어서의 오용은 초급에서 중급, 고급의 학습자로 갈수록 감소하였다. 그러나 '상응성'·'불상응성'·'순간성'의 용법에 있어서는 반드시 감소한다고 보기는 어려웠다.

이상의 대조결과로 부터 한국어 모어화자의 *nagara* 절의 다용과 높은 오용빈도는 한국어의 '면서'의 용법에 영향을 받은 모어전이라는 것이 증명되었다. 앞으로 이번 성과를 또 다른 접속형식에의 지속적인 고찰로 이어감으로서 나아가서는 모어별 차이에 보다 역점을 둔 유효한 일본어 지도법의 발전에 기여하고자 한다.

## 1.はじめに

外国人日本語学習者の作文や談話には次のようなナガラ節・テ形接続を含んだ文接続形式の誤用が数多く見られる。

- (1) \*旅行をしながら 今まで住みながらまちがえたことがあれば反省もしたくて、友達と今まで話さなかったことについて話したくて、今まで行って見ない国へ行って、その国の人も話したいです。[Y大 韓国語母語話者]
- (2) \*留学しながら今の姉の主人を会いました。[KY 韓国語母語話者]
- (3) \*古くて、この家は何の家か、とても、あの～、相談しながら、最後にわかり、ホームレスの家と決めました。[K大 中国語母語話者]

まず、(1)と(2)の韓国語母語話者のナガラ節の誤用に注目してみる。韓国語には「ながら」と同じような意味を表す「면서」<sup>ミョンソ</sup>という形式があり、韓国語母語話者は初級のうちから積極的に「ながら」を用いる傾向がある。しかし、「면서」は「ながら」より使用範囲が広く、「면서」をすべて「ながら」に翻訳することはできない。このギャップが韓国語母語話者のナガラ節の誤用につながると考えられる。

また、「ながら」だけが問題なのではなく、「て」などの他の接続形式にも形式のずれから生じる誤用は数多く見られる。例を挙げると、(1)の「したくて」「話したくて」「行って」という「て」の形式は、韓国語では「고」や「서」という形式にあたる。その中で、「고」は等位接続（羅列）と従属接続（時間）の両方とも表わすことができるが、「서」は従属接続（時間、理由・原因）しか表わすことができないという違いがある。そして、「고」は一度文を中止する役割を持ち、「서」というのはずっと文を続けていく働きを持っており、機能的には異なるのだが、日本語では規則的に「て」という一つの形式に訳されてしまうため、韓国語母語話者は「て」を多用し、意味がとりにくい悪文を生み出す傾向があると考えられる。このように形式の類似と相違は日本語学習者にとって正の転移も起こすが、逆に負の転移も起こしやすいことがわかる。

本論では、日本語学習者の用いる「ながら」の誤用を中心に、次の2点から考察する。

- 1) 母語によってナガラ節の使用にどのような差がみられるか。
- 2) 学習歴の長い学習者と、在日期間の短い学習者にはナガラ節の使用にどのような相違があるか。

この結果、次のような結論を得た。

- i) 使用数も誤用数も韓国語母語話者が中国語母語話者より多い。  
また、使用された用法では、韓国語母語話者は、「始点」の用法の使いが多いが、中国語母語話者は「同時進行の持続性」の用法の使いが多い。
- ii) 「始点」と「背景性」の用法の誤用は中級・上級の学習者になると、減少する。しかし、「相応性」「不相応性」「瞬間性」の用法については顕著に減少しているとは言えない。

## 2. 先行研究

対照研究で韓国語の「면서」と日本語の「ながら」を扱ったものには、柴（1995）や、などがあり、「ながら」が2つの動作の継続を表すのに対して、「면서」は時間関係を表すだけで、動作が継続しているかどうかまでは表さないことを明らかにしている。

それを受けて、鄭・坂口(2001)では、小説などの日本語と韓国語の対訳資料を用いて「ながら」と「면서」の対照を行った。その結果、下の表1のように「면서」の方が「ながら」よりも使用の制限が緩く、主節と従属節の時間関係に幅があっても成り立つことがわかった。

表1 「ながら」と「면서」の用法の比較 (+は用法があることを, -はないことを示す。)

|     | 始点 | 相応・不相応性 |      |     | 同時進行 |     |     |
|-----|----|---------|------|-----|------|-----|-----|
|     |    | 相応的     | 不相応的 |     | 持続性  | 瞬間性 | 背景性 |
|     |    |         | 逆接   | 不相応 |      |     |     |
| ながら | -  | -       | +    | -   | +    | -   | -   |
| 면서  | +  | +       | +    | +   | +    | +   | +   |

違いとしては次の4点が挙げられる。

- 1) 「면서」は「ながら」が持つ同時進行と逆接の用法の他に、始点を表す用法を持つ。
- 2) 「면서」は「ながら」の逆接の用法を含む一段広いカテゴリとして相応・不相応性を示す用法を持つ。
- 3) 「ながら」は主節の出来事が持続性を持たなければならないが、「면서」にはこのような制約はなく、瞬間的な出来事でも主節に来ることができる。
- 4) 従属節の述語が表す時間的な幅が広く、主節の述語が表す時間的な幅との差が大きい場合、「ながら」は非文になりやすい。一方、「면서」は従属節が主節に対して背景のようは働きを持つことがある。

また、「ながら」だけにとどまらず、日本語の「て」や連用形接続と韓国語の「서」「고」「며」といった形式との関連性をみたものとしては、野間(1997)がある。そこでは「日本語の「して」の形にあたるものが、朝鮮語には「하고」「해서」「하며」「하면서」など主要なものでも5つもある点が、形の上では日本語とは対応しない大きな違いである。」(pp.119)と述べられているが、「相互の違いについては、それぞれの節の機能と階層構造を見極めつつ論じられるべきである。」(同)と述べられるにとどまっている。

以上のように対照研究としての立場から述べられたものが主たるもので、まだ第二言語習得の立場から「いわゆるモダリティ形式や、接続詞をめぐって行われた習得研究は、まだまだ少ない」(渋谷(2001))とあるように、ナガラ節・テ接続・連用形接続について述べられた論文はほとんどない。

### 3. 調査方法

本研究では、日本語学習者の作文・談話資料を用いて分析を行う。それには、次の2種5類のデータがある。これらの中から韓国語・中国語を母語とする学習者のデータを抽出し、データベ



| 母語  |          |        | 逆接       | 不相応    |           |          |          |                         |
|-----|----------|--------|----------|--------|-----------|----------|----------|-------------------------|
| 韓国語 | 73 (26%) | 6 (2%) | 28 (10%) | 4 (1%) | 128 (45%) | 25 (9%)  | 19 (7%)  | 283 (100%)              |
|     | 57 (40%) | 6 (4%) | 8 (5%)   | 4 (3%) | 27 (18%)  | 25 (17%) | 19 (13%) | 【137 (49%) / 146 (51%)】 |
| 中国語 | 3 (3%)   | 1 (1%) | 7 (7%)   | 0 (0%) | 77 (82%)  | 4 (4%)   | 3 (5%)   | 95 (100%)               |
|     | 3 (15%)  | 1 (5%) | 3 (15%)  | 0 (0%) | 6 (30%)   | 4 (20%)  | 3 (15%)  | 【75 (79%) / 20 (21%)】   |

日本語の「ながら」の用法にはなく、その使い方として誤ったものになるのは、始点の用法、不相応の用法の相応、不相応、同時進行の瞬間性と背景性の用法である。ただ、始点の用法に関しては、日本語に訳されたときにすべてが誤用となるわけではない。用法的に「持続性」として解釈できる用法もあるため、始点に関しては15例が正用と判断できた。

では、まず、始点の用法から見てみよう。韓国語母語話者に多い始点の用法だが、中国語母語話者のデータからも、3例見つかった。

(4) \*ひさしぶりに海を見ながら国で友達といっしょに東海へ遊びに行ったことが思い出した。[E 専門 韓国語]

(5) \*村の人は「ほら、この息子さん、親孝行って全然知らないようだね！市場まで歩いて行くのは年寄にとって大変なのよ！哀いそう！驟に乗せればいいのにねえ！」と皮肉そうに言いました。この会話を聞きながら、息子は顔中が真赤になりました。[対訳 中国語]

これらは日本語では「て」とすべきもので、日本語の「ながら」が持つ幅をほとんど持たない述語の組み合わせの場合に生じる。(4)は、「海を見る」ことによって、友だちといっしょに東海へ遊びに行ったことを思い出したという始点の用法を表しているし、(5)の例も同様に、「聞いたこと」によって、顔が真っ赤になるという始点の用法的に用いられている。

次に相応を見よう。

(6) \*ソウルは韓国の首都で、プサンは第2都市でありながら港都市です。[N大 韓国語]

相応とは、「\*この車は高いながら広い」のようなもので、日本語なら「で」や「て」などの並列の接続詞を用い「高くて広い」などのように接続されなければならないものである。韓国語では、「狭いながらもいごちがよい我が家」のような逆の意味の2つの物事を並列する場面でも使われるし、「高いながら広い」のような同じ意味の2つの物事を並列する場面でも使われる。

(6)は第2の都市で、さらに港都市であるということを並列的に述べているのだが、「ありながら」という形が使われている。

(7)の例は、中国語母語話者に1例だけみられたものである。「にぎやかで、自分の好きなメロディ」であるということを示すのに「ながら」が使われていた。

(7) \*大学入ってから、よく使う目覚まし時計は、紺色の携帯ですけども、メロディーはにぎやかながらも、私の好きなメロディーで、ディズニーエレクトリカルパレードです。[K大 中国語]

では、相応の逆ともいえる、不相応を見ていこう。「日本と韓国は近いながら遠い」というのが典型的な不相応の用例であるが、逆接とは異なり、「て」「で」などの順接の接続詞を使わなければならない場合である。2つの相反する事象を並べる場合に用いられる韓国語独特の用法である。中国語母語話者にはこのような使用は見られなかった。

(8) \*日本は そばの 人が 何をしても 気かけなくて 自分が している ことを ずっと しながら そばの 人が 何を するのか 何を 考えるのかは 気かけません。[N大 韓国語]

(9) \* 商業性の広告を多い(たくさん) しながら, そんな文句はぜんぜんふさわしくない(の) でおかしいと思う。[対訳 韓国語]

続いて、同時進行の瞬間性を見る。本来、瞬間動詞はながら節にも前接できないし、主節の術語となることもできない。しかし、それにもかかわらず瞬間動詞を用いているのは、両言語母語話者ともに見られる現象である。(10)の例は、従属節「持つ」が瞬間動詞だと考えられるもの、(11)は主節の「喜ぶ」が瞬間動詞であるため、非文となる。

(10) \* 例えば大晦日の夜いつも机の上に魚や肉や水果などを並んで人人は線香を持ちながら  
■ (ママ) の神様に「来年たくさんお金をくれてください」とか「来年ご健康いたします」とかとお祈りします人間は自分の欲しい物や実現したい夢を神様に頼んでいます。  
[対訳 中国語]

(11) \*その友達は自分の専攻をうまくいかしていまはピアノ講師をしながら喜んでいます。  
[N大 韓国語]

最後に、同時進行の背景性を見てみよう。「ながら」は二つの述語の時間の幅はほぼ同じ長さでなくてはならない。だが、「育ちながら」「考える」や、「アルバイトしながら」「もらう」のように動作の幅が大きく異なる二つの述語を用いる用法である。これも韓国語母語話者、中国語母語話者ともに観察される用法であった。

(12) \*幼い頃には漠然と建築家がなれるごとがあると考えたのに育ちながら考えてみるから才能も足りなくて数学も上手にしなければならないのにそのふたつが私にはなくて仕方がなく美しい夢で残っている。[N大 韓国語]

(13) \*アルバイトを自分でしながら, ちょっと中国よりもかなり大きい差があるお金をアルバイト代で貰ったんで, なんか, 最初それを, なんか, 節約, 節約というふうに使ってたんですけど, こちらのほうに一人暮らしになってからは, なんか一回買いだしたら止まらないんですよ, [K大 中国語]

以上のように、日本語学習者が用いるナガラ節に本来の「ながら」の用法ではない使い方が見られるという点は、韓国語母語話者にも中国語母語話者にも共通している。しかし、その詳細においては若干の違いが見られる。韓国語母語話者の誤用のうちもっとも目立つのは「始点」の用

法によるもので、全体の26%を占めるのに対し、中国語母語話者の場合には3%しかない。一方で、中国語母語話者の「ながら」の使用はほとんど「同時進行の持続性」に集中している。

この比較結果から、韓国語母語話者のナガラ節の多用と誤用率の高さは、韓国語の「면서」の用法に影響された母語干渉であることが明らかになった。

## 5. 学習歴の差異

では、学習者の学習歴と用法には差があるのだろうか。次の表4は学習機関別に用法を分類したものである。学習者個人によって多少の差はあるが、K大は3年以上の学習歴を持っており、N大学は2年～3年<sup>注1</sup>、E専門は2年未満の学習歴ということになる。

表4 学習歴と用法の関係 (単位%)

| 用法<br>レベル | 始点 | 相応・不相応性 |      |     | 同時進行 |     |     |
|-----------|----|---------|------|-----|------|-----|-----|
|           |    | 相応的     | 不相応的 |     | 持続性  | 瞬間性 | 背景性 |
|           |    |         | 逆接   | 不相応 |      |     |     |
| K大 (上級)   | 1  | 1       | 8    | 1   | 77   | 6   | 6   |
| N大 (中級)   | 20 | 2       | 5    | 2   | 52   | 13  | 7   |
| E専門 (初級)  | 29 | 0       | 17   | 0   | 37   | 6   | 14  |

こうしてみると、日本語としては誤用となる始点と背景性の用法に関して、始点では、29%から20%へ、そして1%へと学習歴が長くなるに従って減少しており、背景性に関しても、14%から6%へと減っていることがわかる。

しかし、その他の相応、不相応、瞬間性の用法に関しては学習が長くなっても単純に減っているとは言いがたい。

この数字は用例数が少ないこともあり、またレベルは異なるものの、縦断的な観察ではないため、さらなる検討を加えるべきであるが、傾向としては、上級になるに従って、減る誤用と、減っていないと言いきれない誤用があることがわかるのではないだろうか。

ナガラ節での誤用は、中・上級より初級学習者のほうで著しく、ナガラ節の使用・誤用頻度と用法分類の間には関連性が見られ、自己修正が早い「始点・背景性」の用法と修正が遅れる「相応・不相応・瞬間性」の用法とがあるといえる。

ただ、これからさらに一般化された傾向を取り出すためには、自然作文、自然発話を待つだけでなく、積極的に言語テストなどを用いていく必要があるだろう。

## 6. 終わりに

上記のように、日本語の「ながら」をめぐって、韓国語母語話者と中国語母語話者の例を比較

してきた。自然発話、自然作文を中心に用例を収集しているため、数量的にはまだまだ少なく、統計的に信頼できる数値を出すためにはさらに調査方法を変えて考察する必要があると思う。

また、「ながら」だけにとどまらず、「て」や連用形接続などの他の接続形式についても、次のように「て」が連続した不自然な文はよくみられる。

(14)旅行をしながら今まで住みながらまちがえたことがあれば、反省もしたくて、ともだちと今まで話さなかったことについて話したくて今まで行ってみない国へ行って、その国の人も話したいです。[R大 韓国語母語話者]<sup>注2</sup>

このことをふまえ、今後は日本語学習者がどのような転移を受けながら習得を進めて行くのかということをはっきりさせる必要があると考える。その結果を将来的に日本語教育に生かし、母語別に特化した有効な指導法の発展につなげていきたいと考える。

## 注

注1 N大学の中級のデータは、学習場所が日本ではなく母国であるという点で他のデータと条件が異なる。K大学、E専門学校では、来日してから日本語を勉強している学習者が多い。これは、本調査結果の信頼度にもある程度影響を与えていると考えられるが、今回はデータ収集の便宜性を優先し、学習場所の相違は無視することにした。

注2 この用例は今回の分析資料には含まれていない韓国所在のR大学で収集されたもので、留学経験のない学習者による一例である。

## 引用文献

柴公也 (1995) 「「면서」と「ながら」の対照研究 [時間]の「면서」と[持続]の「ながら」をめぐって」『熊本県立大学 文学・言語学論集』2-1.

野間秀樹 (1997) 「朝鮮語の文の構造について」『日本語と外国語との対照研究IV』国立国語研究所

渋谷勝己 (2001) 「習得研究の過去と未来」『日本語学習者の文法習得』大修館書店 p. 213-227

鄭惠先・坂口昌子 (2001) 「誤用分析にもとづく「ながら」と「면서」の比較」『世界の日本語教育』11

## 使用した公開コーパス

KYコーパス

[http://www.opi.jp/shiryo/ky\\_corp.html](http://www.opi.jp/shiryo/ky_corp.html)

日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース ver. 2 (CD-ROM 版)

<http://srasvadi.kokken.go.jp/taiyakuDB/>